道徳科

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 余川 紀子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/0002002640

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.

実践事例

道徳科

道徳科

余川　紀子

１．２年「水の広場」で重点的に育成を図る資質・能力と手だて

向上心	学んだことを生活に生かし、これからの生き方をよりよくしようとする ②終末場面で、導入に使用した写真やアンケートに立ち返らせる
聞く力	道徳的価値について再構築するために、友達の多様な考えを共感的に聞くことができる ②心情円盤などを使って、考えを視覚化させ、自分の考えと比べながら聞けるようにする

第２学年「水の広場」（内容項目Ａ善悪の判断、自律、自由と責任）におけるねらいは、どんな小さなことでも自分で考え、正しいと思ったことを進んで行っていく大切さに気付かせ、自信をもって行動しようとする心の深化を図ることである。「水の広場」の教材文の概要は、資料１の通りである。

みらいくんとあすかさんが公園に行くと、「きけん　水の広場で遊ばないで」という看板が立っていた。しかし、自分達より少し大きな子たちが遊んでいるのを見付ける。みらいくんは、注意しに行こうとするあすかさんを止めるが、あすかさんに「何で止めるの」と言われ、みらいくんはどうすればよいか考えてしまう。

資料１　教材文の概要

（１）向上心

②終末場面で、導入に使用した写真やアンケートに立ち返らせる

本時の授業では、導入時にアンケートを行った（資料２）。展開場面では、どんな相手にでも、その人の気持ちを考えながら行動する大切さに気付くことができた。

終末場面では、資料２のアンケート結果に再度注目させ、これまでの自分の行動と比較しながらふり返ることができるようにした。

質問事項	回答
相手が誰でも、正しくない行動をしている人に、注意できますか。	できる…3 人 できない相手がいる…２２人 誰にもできない…1 人
相手がどんな人だと注意できませんか。	年上の人　知らない人　こわい人 なかよし　特別な理由がある人

資料２　アンケート結果

資料３を見ると、Ａ児やＢ児のように、積極的に行動できなかった児童も、学習を通してより適切な行動の仕方を理解したり（※１）、挑戦してみようという気持ちになったり（※２）したことがうかがえる。また、Ｃ児のように、よいと思う行動ができていると思っていた児童も、さらによい行動について考えることができた。

Ａ児：はじめは注意できない相手がいたけれど、これからは相手の気持ちを考えて言い方を換えて言えばいいことがわかりました（※１）。

Ｂ児：わたしは、注意できない相手がいます。例えば、仲良しな友達、年上の人、知らない人、怖い人などは、注意できません。この授業で、それでもやってみようと思いました（※２）。

Ｃ児：友達が危ないことをしていたら、注意することが大切だと思った。自分は、誰にでも注意ができるが、相手の気持ちを考えたり、言い方を考えて言ったりすることが大事だとわかった。

資料３　児童のふりかえり

これらのことから、終末場面で、導入に使用した写真やアンケートに立ち返ることは、授業の内容を教材文の中だけで終わらせず、自分事としてとらえ、今後の自分自身の生き方に生かそうとする向上心の育成に効果的であったと考えられる。

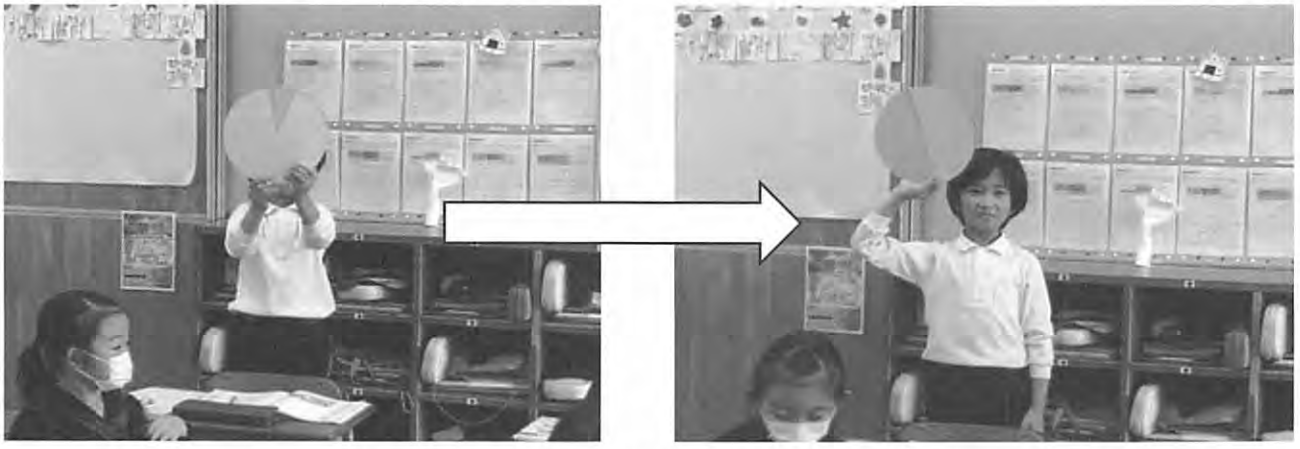
（２）聞く力

②心情円盤などを使って、考えを視覚化させ、自分の考えと比べながら聞けるようにする

本学級では、登場人物の相反する感情の葛藤場面で、黄色と黄緑色の２色の心情円盤を用いて、自分の考えを表してきた。それぞれの感情の大きさやその理由の違いを、「どうして、黄色（黄緑色）が多いの？」や「理由は？」など、主体的に質問し合って交流するようになってきた（資料４）。

資料４　自分の考えを心情円盤で表し交流する様子

本時の授業では、みらいくんの「注意しないでおこう」（黄色）の気持ちと「注意しよう」（黄緑色）の気持ちを心情円盤で表し、交流を行った。友達の話を聞き、自分の考えが変わったら、心情円盤の大きさを動かしてもよいことにすると、半数以上の児童が交流しながら円盤を操作していた。資料５の児童は、最初「注意したら怒られそうだから、注意しない。」と考えていたが、友達の「危険なことだから、注意する。」や「もし怪我などをしてしまったら、注意すればよかったと後悔しそう。」という話を聞き、後から「命に関わる大事なことだから、注意する方がよいかもしれない。」と考え直していた。登場人物や自分の考えを視覚的にとらえたり、友達との考えの相違に気付いたりするだけでなく、友達の考えに触れて、自分の考えが変容する様子も反映させることができた。



資料５　友達の考えを聞き、考えが変容した様子

これらのことから、心情円盤などを使って考えを視覚化させることは、相手の考えを理解するために主体的に聞いたり、自分の考えとの相違点を意識しながら聞いたり、友達の話を受けて自分の考えをフィードバックしながら聞いたりできるので、聞く力の育成に効果的であったと考えられる。